

琉球大学学術リポジトリ

1972年の沖縄返還時の有事の際の核持ち込みに関する「密約」に係る調査関連文書No.2

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2019-02-15 キーワード (Ja): 核持ち込みに問題, ジョンソン次官 キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/43897

特

注意

- 1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
- 2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

電信写

大政事務次官
外務省
事務次官
局長
参事
文書課長
総務課長
企画課長
調査課長
情報課長
秘書課長
総務課長
参事
文書課長
総務課長
企画課長
調査課長
情報課長
秘書課長

総番号 (I A) 39682
 69年9月8日 21時30分 米 国 着
 69年9月9日 13時46分 本 省 着
 外務大臣 殿 下田 大使 臨時代理大使 総領事 代理

オキナワ問題

第2785号 特秘 至急

タナカ大使より

本使当地着以来国務省関係者と会談したが、その概要及び所見次の通り。

1. 5日及び8日フィンと会見し、主としてシモダ大使あて訓令の三点につき話し合い。本使より日本側の見解及び事情を説明せるに対し(1)コミニケはコミットメントにならないという点でや張り政府部内にはPRIVATE AGREEMENTでうら付ける必要があるとの意見が強い。(2)サイトムについては軍事委員会等にこれまで使っていた基地の使用が不確定となるという点でこれを納得させることは極めて困難である。ただし引続き使用するという意味を持つものであれば返かん時に協議するとの如き表現とすることは可能性があり、各種の表現が秀される。(3)核は結局緊急事態の問題となると考える。との趣旨を述べていた。

また、フィンはオキナワ返かんに関連する財政問題の重要

参地中東
長 北東西
参北北保
参一
中南審歌
参西東洋
西東
参書近ア
次総経一
参賢統三
参政技二
国一理
参協規
参政経科
車社専
参道内外
文長

特

注意

- 1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
- 2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

電信写

性を強調し、流通しているドル貨については独、仏間のザール地域に関する先例にかんがみ、日本が回収したドル貨はDESTROYすることを提案することが考えられている(この点もしこれまで米側よりこの種情報なき場合、同人の立場もあり、当面部外秘とされたし)。財政問題は事前協議条項の運営との直接的関連性はないが、議会説得には重要なポイントとなるので、日本側の考慮を要望すると述べた。また当方の質問に対して国防省は現在の交渉に対しては特に異議はとなえていないが、その公式の立場としては当然核付き、自由使用といっている。議会は休会明けで、これから動き出すところであり、マイヤー公使が説明に行くことになっている。アメリカン・レジョンの反対決議は従来からのものであり、特に重大視していないと述べていた。

2. 8日スナイダーと話し合ったが(シモダ大使のジョンソン次官との会見後)、基地使用の問題についてはコミニケにおいて明確にコミットし得ないのであれば米側としては国内関係方面を納得させるためにもや張りこれをうら付けるものが必要であるとの態度を持した。ベトナムについては返かん時戦闘継続の場合における基地使用のSUBSTANTIALについて日本側に異議がなければ表現をいかにするかについては日米間に協議することが可能であると

参地中東
長 北東西
参北北保
参一
中南審歌
参西東洋
西東
参書近ア
次総経一
参賢統三
参政技二
国一理
参協規
参政経科
車社専
参道内外
文長

特

注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

電信写

極秘

述べ、核については最高首のう部による決定を待たなければならぬが、じゆん然たる私見としては作戦行動のための基地使用につき米側として満足し得る条件が得られれば EMERGENCY の場合の問題はあるが、日本側の立場を考慮すると思ふと述べた。

3. 8日グリーンと会見したが、本使よりシモダ大使より申し入れの三点を説明し、日本側立場に対する理解を求めた後、主としてベトナム情勢につき質問したのに対し、先方は北越の態度は短期的には変化はないであろうが、長期的にはホーチミンの死はい大な指導者を失ったことより、NLF の士気へ影響し、また北越政府内部においても指導層間にあつれきが生ずると見ていると述べていた。

ベルギーへ転電した。

(7)